



国際ロータリー 第 2780 地区 第9グループ
湯河原ロータリークラブ 週報



イマジン
ロータリー

2023年6月16日(金) 第2924回例会 形式:対面 天候:曇り
合唱:それこそロータリー

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

今日も例会欠席で、伊藤副会長に大変ご迷惑をおかけします。

半年前から予約をしてあった飛鳥クルーズ7日間で洋上の人となっています。日曜日に横浜港を出港して、台風

の発生している九州へ向かってますが、どうなる事やらです。

今回の目玉は広島寄港と瀬戸内海を巡るクルーズです。

飛鳥のような大型客船は瀬戸内海を夜間に通航することが禁止されているので、朝入ったら夕方には瀬戸内海から出なくてはならないので、このコースのクルーズはとても少なく、それで半年も前から予約しました。

本日金曜日、今頃は室戸岬沖で揺られながら横浜へ向かっている頃です。我々も3年ぶりのクルーズで荷物等の準備もいろいろ忘れていた事ばかりですが、本だけは5冊も持ち込みました。この本をよだれだらけにして帰って来る事間違いないですが。

来週はいよいよ今期最終例会ですので、今回のクルーズで大分丸くなった家内も出席させていただきます。

又1年間お世話になった皆様と、夏のバーベキューを7月23日の日曜日に我が家で企画する予定です、細かい事は改めて連絡させていただきますが、是非お出かけ下さい。。

連絡事項 無し

幹事報告

ガバナーより

1.2023-2024 年度 地区ロータリー財団セミナー及び補助金管理セミナーのご案内

日時:7月15日(土)受付開始 12:30

R 財団セミナー 13:00~15:10

補助金管理セミナー 15:30~16:30

場所:アイクロス湘南 6 階「会議室」

対象者:次年度クラブ会長、次年度クラブ R 財団委員長、次年度奉仕プロジェクト委員長のうち 2 名以内

回答期限:7月7日(金)

スマイルボックス

安藤紀之君(箱根ロータリークラブ)

大部久しぶりの貴クラブへのメイクアップです。よろしくお願ひ致します。

伊藤伸之君 安藤様、ようこそ。

室伏学君

愛媛県道後で開催された、旅館業界の全国大会に出席しました。寝台列車「サンライズ瀬戸」を利用し、鉄道の旅を満喫しました。

高杉尚男君

さがみ信用金庫の親睦団体の湯河原信和会の総会を無事に行うことができました。会長高杉尚男、副会長渡辺久恭。

石田浩二君

5月30日より開催しておりました「蛍の宴」が6月14日無事終了いたしました。お陰様で盛況にて終わっています。ご協力有難うございました。

出席報告

ゲスト 2名 ビジター 1名

会員 23名 欠席5名(免除者2名)

出席率 85.71%

前回の修正出席率 85.71%

前々回の修正出席率 78.95%

事前メイクアップ 0名

ゲスト 常盤恵子様(ガールスカウト神奈川県連盟第9団)

ゲスト 長田由美様(ガールスカウト神奈川県連盟第9団)

ビジター 安藤紀之君(箱根ロータリークラブ)

皆さん、こんにちは。今日は「生成系 AI」というテーマについてお話ししたいと思います。AI、つまり人工知能について、皆さん一度は聞いたことがあるでしょう。それが何をするのか、どのように機能するのかは詳しく知らない方もいるかもしれません。今日はその一部、生成系 AI について詳しくお話していきましょう。

まず、生成系 AI とは何かを説明しましょう。生成系 AI とは、人間が書いたようなテキストを作り出す、または人間が描いたような画像を生成する、といった能力を持つ AI のことを指します。このような AI は様々な分野で使われています。例えば、ニュース記事の作成、自動翻訳、音楽や絵画の生成などです。

生成系 AI は、大量のデータからパターンを学習し、そのパターンを用いて新しいコンテンツを生成します。この学習の過程は「機械学習」と呼ばれ、特に「深層学習」と呼ばれる技術がよく使われます。深層学習は、人間の脳の神経回路網を模倣したニューラルネットワークというモデルを使って学習を行います。

ここで生成系 AI の具体的な利用例について見てみましょう。その一つがチャットボットです。例えばカスタマーサービスのチャット窓口で、人間のオペレーターではなく AI が対応しているという場を体験された方もいらっしゃると思います。これらの AI は、人間と自然に会話をするためのフレーズを生成する能力を持っています。

さらに、生成系 AI はクリエイティブな分野でも使われています。音楽や絵画、詩や小説など、人間が作り出す芸術を AI が生成する試みが行われています。これらは人間の芸術家に新たなインスピレーションを与えることが期待されています。

しかし、生成系 AI には課題もあります。その一つは、AI が生成するコンテンツの品質の保証です。AI が生成したテキストが常に正確であるとは限らず、誤解を招く可能性があります。また、個人情報保護、著作権の問題、偽情報の拡散など、法的・倫理的な課題も存在します。

これらの課題を解決することで、生成系 AI はより広範囲にわたり、より深く私たちの生活に浸透していくでしょう。AI の世界は急速に進化しており、我々人間もそれに合わせて理解を深め、適切な対応を考えていく必要があります。

以上、生成系 AI についての簡単な説明でした。ありがとうございました。

左の段に示しました卓話原稿、卓話時に用いたプレゼンテーションファイルの構成は、ChatGPT-4が行いました。文の微調整などはさすがに人力で行いましたが、GPT-4にお願いした内容はごく単純なものでした。

「生成系 AI について、AI をよく知らない人向けの、1500字程度原稿を用意してください。お願いします」

もはや AI の脅威は、すぐそこに迫っているようにも思えます。

さて、これ以降は完全に人力での説明になります。先日、私が教育コーチを務めている大学の講習会にて、「生成系 AI」をテーマとしたレクチャーがありました。その内容を端的に説明できるほどまだ私自身が理解を深められていないのですが、高等教育の現場が「生成系 AI」に大きな関心を寄せていることが強く認識されました。

特に現実的な問題として、学生に出題するレポート課題において、学生が「生成系 AI」を活用することをどのように取り扱うか、があります。これまでの Google 検索のように、調べること自体は自力で行っているというものであれば問題とはいえないところ、例に示したように文章(成果物)まで見事に生成されてしまうと、もはやそれは誰の力によるものなのか、悩ましく思うことは無理もないでしょう。しかし生成系 AI の使用を一様に不正行為と断罪できるかといえば、試験におけるカンニング、レポートにおける盗用・剽窃と異なり、難しいと言わざるを得ません。生成系 AI について教育現場がどのような立場を取るにせよ、AI の劇的な進化はあらゆる対応を無力化させてしまうのではないかと、という可能性すら想起させるほどです。

しかし AI がどれほど進化しようとも、その活用を判断するのは最終的には人間であることも事実です。また AI がどのような良縁や良質なアプローチを提案するような世の中になっても、結局は人間と人間が腹を割り、膝をつきあわせ、お酒を酌み交わして語り合っ生み出された絆ほど、人間にとって説得力のある形はない、という予測は、決して希望的観測ではないように思います。個人的にも、AI の進化を注視しながら、AI ではなく人にとってためになるような、人の好意と友情を深めるような生き方を、引き続き実践していきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

(文・編集: 櫻井武志(6月会報担当) / クラブ会報委員会)